

第4学年*組 図画工作科学習指導案

指導者 横須賀 哲也

1 題材名 気球に乗って大空を旅しよう！

2 題材の目標

夢の気球をつくることに関心をもち、感じたこと、想像したことを基に構想を練り、形や色を工夫して表すとともに、自分たちの作品についてよさや面白さを感じ取る。

3 題材設定の理由

本題材は、ふくらませた風船を型にして半紙で球状の張り子をつくり、張り子の形や「気球」という言葉からイメージをもち、夢の気球づくりをして、工作に表すものである。身近な半紙や小麦粉でつくったでんぶん糊を使って張り子をつくり、そこから夢の気球づくりをするという活動は、児童にとって造形活動への意欲や発想を喚起することができると考える。

本学級の児童は、これまでの学習で、友人との相互鑑賞や少人数グループでの活動などを取り入れて学習を進めてきた。意識調査（平成26年9月2日実施、調査人数26人）では、1学期の学習について、友人と作品を見合ったり話し合ったりしたこと、自分の作品づくりに生かすことができたという児童が20人いた。このことから、表現の活動に相互鑑賞の場を設定したり、グループ形態で友人の作品を見たりしながら製作を進めることは、作品づくりに有効であることを実感している児童が多いことが分かった。また、授業での観察から、製作が滞っている児童が、友人と話をしたり作品を見たりすることでヒントを得て、つまずきを解消する姿が見られた。

そこで、本題材では、これまでの学習活動の工夫を更に充実させるため、まず、児童が自分なりの感性や想像力を十分に働かせることができるように題材設定を工夫する。この気球の製作は、張り子の形や「気球」という言葉から、一人一人がもつ大空へのあこがれを作品に込めることができ、幅広い表現をすることができる題材であると考える。次に、表現活動と鑑賞活動の関連を図った学習活動を行う。〔共通事項〕の視点で製作のアイデアを考えるワークシート及び考えを伝え合うメッセージカードを活用することや、少人数グループでの学習を基本として、製作途中の作品やワークシートを基に話し合う相互鑑賞の場を設定することで、児童は表現活動におけるイメージをふくらませることができると考える。さらに、教師は、学習計画表やワークシート等の記述を具体的な評価規準に即して評価し、児童の学習状況を把握した上で活動を支援する。

以上のように、表現と鑑賞の関連を図った学習活動と評価の工夫を行うことを通して、思考力・判断力・表現力を育むことができると考え、本題材を設定した。

4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
①球状の張り子から発想を広げて、つくりたいものを探したり工夫したりしている。 ②自分や友人の作品のよさや面白さを自分の思いで味わおうとしている。	①紙の張り子や様々な材料からつくりたい気球を思い付いて、つくり方を考えている。 ②つくりながら形や色を考えている。	①自分のつくりたいものに合わせて、材料の使い方やつくり方を工夫して表している。	①感じたことを話し合ったり、書いたりしながら形や色、表し方の違いなどを捉え、よさや面白さを感じ取っている。

5 指導と評価の計画（8時間扱い）

次 時	○ねらい ・ 学習活動	評価規準	評価方法, 留意点等
1 1 2	○風船や和紙から、球体の張り子をつくる。 ・材料に触れて、感触や特性をつかむ。 ・でんぶん糊を使って、和紙を風船に貼る。 ・感じたことや気付いたことについて話し合う。 ・張り子を仕上げる。		題材への興味・関心が高まっているかを観察から捉え、次の段階での評価の資料とする。
2 3 本時 4	○張り子から発想を広げて、つくりたい気球を思い付いたり、つくり方を考えたりする。 ・作品の形や色、気球の名前や物語について考えたことを、ワークシートに絵や文章で表す。 ・考えたことを発表し合う。	関① 発①	関①, 発①ワークシートに自分のアイデアを表せていない児童を中心に支援をする。 (観察, ワークシート)
3 5 6 7	○発想したことを形や色で工夫して表す。 ・めあてをカードに書く。 ・張り子にカッターで切り込みを入れて、風船を抜く。 ・張り子を着色する。 ・飾りや付属品をつくる。 ・メッセージカードを書いて友人のワークシートに貼る。 ・更に工夫したいことをワークシートに書く。	関① 発② 技①	関①活動の様子から見取って声をかけ、状況に応じて意欲付けをする。 (観察) 発②前半は構想がまとまらない児童を見取り支援する。完成が近付く製作の後半に評価を確定していく。 (観察, 作品) 技①表現が工夫できていない児童を見取り支援する。完成が近付く製作の後半から評価を確定していく。 (観察, 作品)
4 8	○自他の作品のよさや面白さを感じ取る。 ・作品を相互鑑賞して、気付いたことや感じたことをメッセージカードに書く。 ・メッセージカードを友人の鑑賞カードに貼り、よさや面白さについて発表する。 ・学習を振り返り、感想をワークシートにまとめる。	関② 鑑①	関②視点をもって感じ取ろうとする態度などを見取る。 (観察, ワークシート) 鑑①根拠に基づいて自分の考えを述べているかなどを見取る。 (観察, メッセージカード)

6 本時の学習（第3時）

（1）目標

和紙でつくった張り子からイメージを広げ、つくりたい気球を思い付いたり、つくり方を考えたりすることができる。

(2) 準備・資料

教師…風船、半紙、ペットボトル・牛乳パック等の材料、デジタルカメラ、ワークシート、

メッセージカード、掲示物（学習のめあて）

児童…色鉛筆、材料、図工ファイル

(3) 展開

学習活動・内容	
1 本時の学習課題をつかむ。 空にうかぶ夢の気球を考えよう！	<ul style="list-style-type: none"> 指導上の留意点、◎評価（A：具体例、C：手立て） 本時の学習課題と張り子の球体を見せ、児童が学習への見通しをもてるようする。
2 ワークシートに学習のめあてを記入して活動を明確にする。	<ul style="list-style-type: none"> 無装飾の白い張り子が、着色や飾り付けで自分独自の気球になることを伝え、意欲やイメージを喚起する。
3 発想したことを、絵や文章でワークシートに表す。 (1) 作品名を考える。 (2) 形や色を考える。 (3) 飾りや付属品を考える。 (4) 自分で用意する材料を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 少人数グループをつくる、話し合いながら活動できるようにすることで、友人の考えを参考にしながら気球のアイデアが考えられるようする。 ◎球状の張り子から発想を広げて、つくりたいものを探したり工夫したりしている。 （観察） A：積極的に友人と話したり考えをかいたりしながら、つくりたいものを探したり工夫したりしている。 C：対話することでつまずきの要因をつかみ、活動を支援する。 ◎張り子や様々な材料からつくりたい気球を思い付いて、つくり方を考えている。 （観察、ワークシート） A：複数のアイデアを思い付き、選びながら考えている。 C：空に浮かんでいると楽しい物や、自分が好きな物などから考えられるように支援する。
4 自他の作品のよさや面白さを感じ取る。 (1) グループで、考えたことを発表し合い、メッセージカードを書いて友人に渡す。 (2) 更に工夫したいことを、ワークシートに絵や文章で表す。	<ul style="list-style-type: none"> グループで、司会者と発表順を決め、言葉やワークシートの絵や文章で説明するよう促す。 話し合いの中で、友人の助言などから得たヒントや新たに気付いたことなどを、ワークシートに書き加えるよう助言する。 本時の学習で発想や構想できしたことや、友人との話合いによかったこと、更に工夫したいことなどを発表させ、児童が次時のめあてをもてるようする。
5 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の成果を確認し、次時の学習に生かすことができるようする。